

学校目標	高いプロ意識を持ち、お客様とのコミュニケーションを第一に、専門的な知識と技量の向上に努め、社会で自立し活躍する理容師・美容師を育成する。 (現場で評価され信頼される理容師・美容師を育成する)
生徒目標	・プロを目指し、プロとして振る舞い、プロになる ・お客様に喜ばれ、満足され、信頼されるステキな理容師・美容師となる
学校テーマ	キレイのプロはTORIBIで生まれる

評価項目	現状と課題	目標達成のための方策	改善の方策(中間・最終評価時)	評価
1 教育課程編成	<ul style="list-style-type: none"> ○「理容師・美容師養成施設における養成課程の標準的なカリキュラム」(厚生労働省)に則った教育課程の編成を継続する。 ○選択必修科目には、ビジネススキルの基礎となる「ビジネスマナー」、理美容技術の幅広い基礎につながる「ネイル」「メイク」「エステ」「着付け」等の課目を設置し、社会人としての教養や将来の専門分野に対する選択の幅を拡げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国家試験受験に必要な教科課目の履修と修得を達成し、全員が国家試験を受験するように努める。 ○国家試験の結果を謙虚に分析し、一層の向上を目指し授業改善や試験対策に活かす。 ○生徒全員が理美容技術の幅広い基礎を学ぶことを意味する本校の「トータルビューティー」への理解を一層深める。 		
2 授業内容と研修	<ul style="list-style-type: none"> ○専門分野に実務経験豊富な講師による授業を多く開設し、安心して国家試験受験に対応できる。 ○国家試験向けのオーソドックスな授業が多く、生徒の興味・関心を引きつける授業が求められる。 ○教職員自らが、+1の課題を設定することで、教職員個々の教育力を一層高める。 ○生徒が授業で習得した知識・技能を活かしコンテスト等への挑戦を促す。 ○地域貢献活動を通じ地元への意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新課程による試験内容への対応を適切に行うため、教職員の意識と技術の一層の向上を目指す。 ○従来型の授業に加え、協同学習やICT活用等の新たな授業を模索する。 ○適切な+1課題の設定への相談とその達成に向けた研鑽の支援など教職員への支援を充実させる。 ○様々なチャレンジや活動等を通し学ぶ意欲を高め、挑戦する心やくじけない心を養い、ふるさと鳥取を愛する気持ちを育てる。 		
3 生徒募集と生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ○理美容系専門学校を目指す県内高校生の7割が県外へ進学している。 ○本校への地域の認知、評価を上げる努力が必要である。 ○入学時の基礎学力や学習意欲に生徒個々の差が大きい。 ○生徒は落ち着いた学校生活を過ごしているが、教職員がチームで取り組む生徒指導・支援の重要性が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数での学び、落ち着いた学習環境、資格取得と就職率の高さなどの特色や学習成果をさらに積極的にPRする。 ○教科指導力に加え、生徒理解・支援やICT活用等の研修を通して組織としての教育力を高める。 ○教職員間で成果や課題を共有するなど、教職員間や生徒間の協同を推進するため協同学習の理念・技法を導入する。 		
4 教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○建物、施設・設備は老朽化が進みつつある。今後、計画的な施設・設備の更新を検討する。 ○校舎内の環境は日々の清掃が比較的丁寧に行われており、目立った汚れもなく清潔感は保たれている。 ○用具の整理整頓、効率的な活用等にはまだまだ工夫の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校営繕費の効果的な運用を工夫し、学校後援会等にも相談をしつつ、授業環境整備を優先し計画的に更新を図る。 ○サロンワークにつながる整理整頓や丁寧な清掃を心掛け、常に清潔感のある気持ちの良い学びの環境を作り上げる。 ○建物の外壁等の修繕を本年度の早い時期に実施する。 		
5 学校運営全般	<ul style="list-style-type: none"> ○創立60年を超える伝統校ではあるが、地域の認知や評価を上げ、旧来型の学校運営・イメージを変える努力が求められる。 ○理事会、教職員、生徒が、ともに教育目標に対する方向性を揃え、風通しの良い組織の構築を一層進める。 ○教職員の採用が始まり、若手教員を伸ばす組織的な取組が必要。 ○新型コロナウイルス感染症等の危機管理を確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元を支え地元を支えられる教育機関として、その役割と責任を明確にし、地元の関連業界の要望に可能な限り応える教育体制を構築する。 ○本校で学ぶ目的や将来ビジョン等について、生徒、教職員、理事会で共通理解の下で一層の学校の活性化を進める。 ○若手教員育成のための研修機会の提供、指導教員の配置等を理事会等の支援の下で積極的に進める。 ○危機管理は関係機関と連携し、トップダウンで行う。 		

A: 概ね目標を達成 B: 目標を達成している部分、不十分な部分ともにある C: 目標達成が概ね不十分